

(5) 札の辻

(宇陀市榛原萩原～榛原自明)

あを越え伊勢街道(初瀬街道)は江戸時代に津の藤堂藩が整備し、峠が少ないことから多くの参宮者が利用。昭和5年の鉄道開通により道は鉄道の軌道や国道に姿を変えたが、沿道の宿場町には伊勢参りの講看板や常夜灯が残され、今もいにしへの賑わいを伝えている。



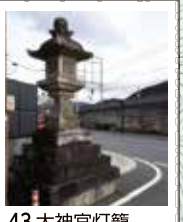
51 宗祐寺
融通念仏宗の寺院。重文の木造多聞天立像と仏涅槃図三幅を蔵する



44 榛原駅南口の石標
正面に「鳥見山中靈時跡 北二十丁」右に「肇国聖蹟 墨阪神社 東六丁」と刻む。1丁は109m



42 「札の辻」の角石の道標
伊勢本街道と初瀬街道(あお越え道)の分岐点。高札場のあった札の辻に建つ



43 太神宮灯籠
御室御所(仁和寺)御寄附の銘がある



52 福地の町並み
榛原の伊勢街道で唯一古い町家が続いている



46 桜牧の板碑形道標
県内最古、寛文4年(1664)の供養碑兼道標。読みづらいが「右いせみち 左やまみち」を指す



49 不動堂
手前に「大師爪書の不動尊」と伝わる磨崖仏があり、参宮者を接待する茶所として使われていた



50 宇陀川の桜並木
榛原駅の南から上流にむけて続く。万葉歌にちなみ「鎖路の桜」と呼ばれている



45 墨阪神社
崇神天皇が疫病を鎮めるため赤盾8枚、赤矛8竿をもって墨坂神を祀ったと伝える。文安6年(1449)天の森から現在地に遷座する



47 御井神社
主神の御井神は食物をつかさどる。本殿の裏山には県指定天然記念物のツルマンリョウが自生する



48 初生寺への道標
「新西国十二番はしやうじ道」とあるが、国道改修で移設のもので、初生寺へは通じない

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがえやすい分かれ道
- 地蔵など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ

この部分は次ページもご覧下さい